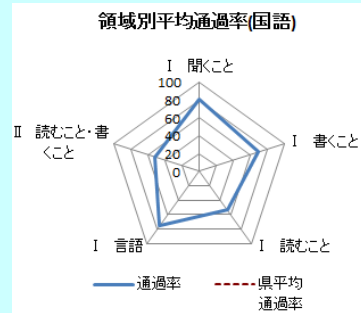
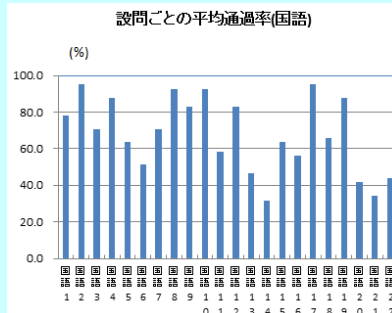


「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 67.8%, 県 68.0%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題	
本校	74%
広島県	77%
全国	74.8%
B問題	
本校	53%
広島県	61%
全国	57.5%

本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査  
◇全国学力学習状況調査

○取組の成果と課題  
昨年度の各種学力調査結果から、①主語・述語の関係をとらえること②中心となる語や文に着目して読み取ること③必要な情報を取り出すことに課題があった。そこで、次の三点を工夫して取り組みを行った。(①日記指導や作文指導で主語・述語が対応するよう指導する②さまざまな種類の文章を読む経験を積む③目的や型を示し、条件を付けて書く活動を設定する取組) その結果、①については成果があったが、②③については課題が残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題  
◎叙述を基にした想像(自分の考えの記述)ができていない。(31.6%)  
情報の取出し・情報を関係付けた記述ができていない。(34.1%)  
◇漢字の意味を理解し、漢字を正しく書くことができていない。(32.1%)  
目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができていない。(25.0%)

重点課題

◎基礎基本定着状況調査  
◇全国学力学習状況調査

- ◎ 叙述を基にした想像(自分の考えの記述)ができていない。(31.6%)
- ◎ 情報の取出し・情報を関係付けた記述ができていない。(34.1%)
- ◇ 漢字の意味を理解し、漢字を正しく書くことができていない。(32.1%)
- ◇ 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことができていない。(25.0%)

標準学力調査に向けた重点取組

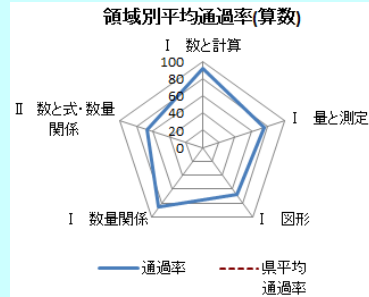
- ・授業の中で、叙述を基に自分の考えを書く活動を設定する。
- ・目的や型(段落の数・文字数等)を示し、条件を付けて書く活動を設定する。
- ・漢字の意味を理解するために、漢字辞典を活用させる。
- ・具体的な事実と自分の感想、意見などを区別しながら必要な内容を整理して書く活動や、文や文章などから必要な語句や文を引用して書く活動を設定する。

取組計画表

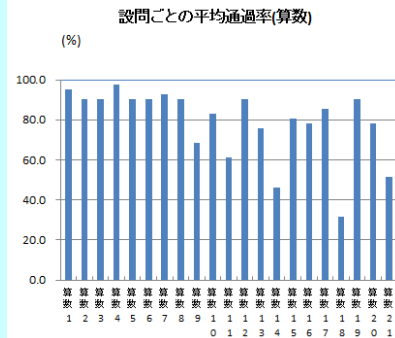
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・全教職員がそれぞれ問題を実際に解き問題分析をし、誤答の分析に生かす。	・改善計画を作成し、2学期以降の取り組みについて共通理解を図る。	・自主公開研究会を行う。	・授業研究を行う。	・学期末テストを実施・分析し、重点指導を行う。	・標準学力調査の実施	・標準学力調査の結果を分析する。	・次年度に向けて計画を立てる。
児童への取組	のびのびタイム (漢字・視写・辞書引き・読み取る)・朝読書の読書活動							
						【検証】標準学力調査 目標値 市平均以上の児童 80%		

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 78.9%, 県 74.3%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度通過率

A問題

本校 76%

広島県 81%

全国 78.6%

B問題

本校 38%

広島県 47%

全国 45.9%

本年度の結果について

◎「基礎基本」定着状況調査  
◇全国学力学習状況調査

- 取組の成果と課題
  - ・生活場面等に結びつけた課題解決場面を設定したことにより、問題の意味理解ができるようになった。
  - ・記述式の問題において、筋道立てて考えたり書いたりする活動に取り組んだが、課題が克服できていない。
- 今年度の調査から新たに明らかになった課題
  - ◎時をまたぐ時刻の求め方が理解できていない。(68.3%)
  - 平行四辺形の作図の際にどのような定義を利用しているか理解できていない。(46.3%)
  - 複合図形の中から、求積に必要な辺の長さを求めることができていない。(61.0%)
  - ◇小数と整数の和を求める際に、位ごとに計算できていない。(67.9%)
  - わり算と分数の関係を理解できていない。(60.7%)
  - 二次元表の合計の意味が理解できていない。(39.3%)
  - 記述式の問題において条件にあった答え方ができていない。(B問題38%)

重点課題

◎基礎基本定着状況調査  
◇全国学力学習状況調査

- ◎問題解決にどのような定義や考え方を活用しているのかを理解できていない。
- ◇小数・分数を含んだ四則計算が正確に計算できていない。
- ◇記述式の問題において、問題場面や、与えられた条件に応じて適切に回答することができていない。

標準学力調査に向けた重点取組

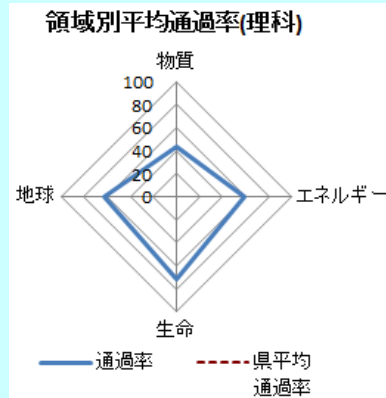
- ・作図や求積の場面において、問題解決の方法と活用した定義や考え方をつなげて発表させるなど、数学的な考え方と技能の接続を図る。
- ・個のつまづきを分析し、四則計算の確実な定着を図る。
- ・授業場面に積極的に「書く活動」を位置づける。その際、使うべき用語や説明の仕方を示すことにより、条件に応じた答え方を身に付けさせる。

取組計画表

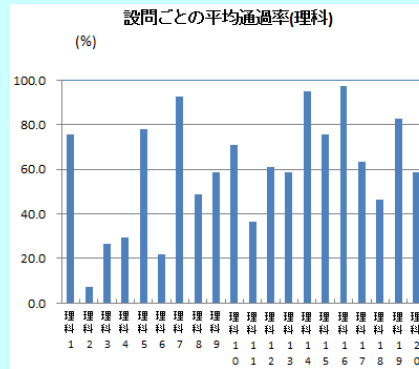
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等(職員)	・全職員がそれぞれ問題を実際に解き問題分析をし、誤答の分析に生かす。	・改善計画を作成し、2学期以降の取組について共通理解を図る。			・学期末テストを実施・分析し、重点指導をおこなう。	・標準学力調査の実施。	・標準学力調査の結果を分析する。	・次年度に向けて計画を立てる。
児童への取組		○のびのびタイムの実施 (個別のつまづきに応じた指導の実施)				○「書く活動」を取り入れた授業の実施 (授業改善・経年研修の活用)		
						【検証】標準学力調査 目標値 市平均以上の児童 80%		

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 59.3%, 県 61.7%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



本年度の結果について

- 取組の成果と課題  
実験や観察を行う際に、自分の経験や生活と結び付けた授業展開をしたことで、「虫眼鏡による光の道筋(92.7%)」「温度の正しいはかり方(95.1%)」の正答率が高かった。
- 今年度の調査から新たに明らかになった課題  
タイプⅠでは「虫眼鏡の使い方(36.3%)」、タイプⅡでは「適切な検証方法の選択(7.3%)」「予想の根拠(26.8%)」「仮説に基づいた実験の結果と予想(29.3%)」「日光を重ねた時のあたたかさ(22.0%)」の正答率が低い。

重点課題

- ・実験の予想や結果、考察を記述する問題の正答率が特に低い。
- ・閉じ込めた空気を押したときの空気の流れる方向の理解が不十分であると考えられる。
- ・問われている金属の温まり方と、既習の水と空気の温まり方を混同していると考えられる。

標準学力調査に向けた重点取組

- ・毎時間、予想や考え、結果・考察などを理科用語を適切に使って自分の言葉で書く活動を設定し、書くことに対する抵抗をなくしていく。
- ・既習事項の定着を図るため、プリントでドリル学習を行う。  
単元末テストのほか、発展的な問題（活用問題）のプリントを行い、既習事項と関連づけて考える力を養う。
- ・めあてとまとめを短い文章で焦点化して書くことで、ポイントをおさえた文章を書く習慣をつける。

取組計画表

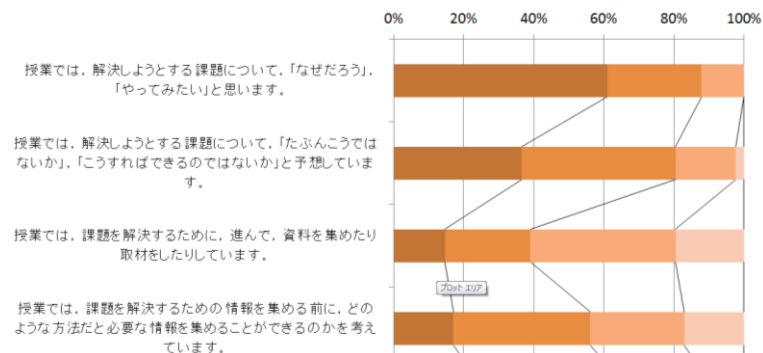
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	・全職員がそれぞれ問題を実際に解き問題分析をし、誤答の分析に生かす。	・改善計画を作成する。 ・授業改善の視点を明らかにする。		・授業研究を行う。		・標準学力調査の実施	・標準学力調査の結果を分析	
児童への取組			・意見交流や書く活動の時間を少し長めにとり、自分の意見を深め、達成感をもてるようにする。			標準学力調査 目標値 市平均以上の児童 80%		

既習事項の定着を図るため、プリントでドリル学習(週末の宿題)

### 別紙3 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：児童質問紙調査）

#### (1) 生活・学習

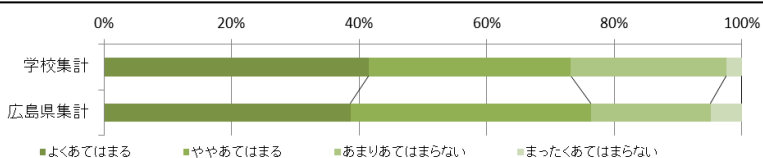
「課題発見・解決学習」(1)



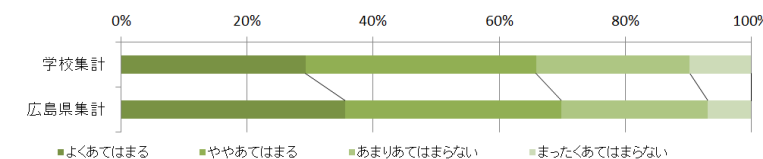
児童の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。」の項目で、本校の肯定的評価は39.0ポイントで、県平均より12.8ポイント低い。	・教科・領域の学習内容によって、可能なところで課題解決のための資料集めや取材等を意図的に取り入れていく。	全	「進んで資料を集めたり取材をしたりしている」と答える児童の割合60%	アンケート	学期末		

#### (2) 教科

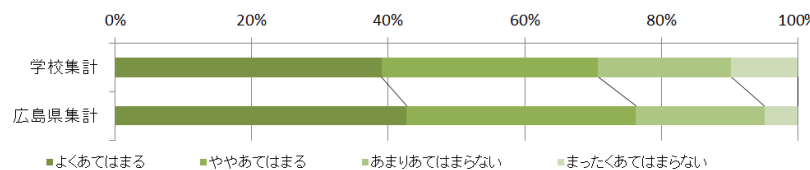
国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。



算数の授業では、式が何を表しているかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。



理科の授業では、自分の考えや予想を基に観察や実験の計画を立てています。



	児童の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落のつながりに注意したりして文章を読んでいます。」の項目で、本校の肯定的評価は、73.2ポイントで、県平均より3.2ポイント低い。	・中心となる言葉や文を見付けたり段落相互の関係を考えたりしながら、内容を読み取らせる。	全	「中心となる言葉や文を見付けたり、段落と段落に注意したりして文章を読んでいる」と答える児童の割合80%	アンケート 単元末テスト	学期末		
算数	「算数の授業では、式が何を表しているのかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしています。」の項目で、本校の肯定的評価は、65.9ポイントで、県平均より4.1ポイント低い。	・立てた式を説明する場を多くする。 ・式に当てはまる問題作りを取り入れる。	全	「式が何を表しているのかを考えたり、式に当てはまる問題を作ったりしている」と答える児童の割合75%	アンケート ノート記述 行動観察	学期末		
理科	「理科の授業では、自分の考えや予想を基に観察や実験の計画を立てています。」の項目で、本校の肯定的評価は70.7ポイントで、県平均より5.6ポイント低い。	・自分の考えや予想を基に、観察や実験の計画を立てる場を多くする。 ・実験の目的が、一人一人のものになるよう課題を明確にし、予想を具体的に立てさせる。	3年～6年	「自分の考えや予想を基に観察や実験の計画を立てている」と答える児童の割合80%	アンケート ノート記述	学期末		